

# 抵抗性品種を活用したかんしょ腐敗症状等の防除体系の構築

## 【研究計画概要】

対象品目：かんしょ

研究機関：農研機構（植物防疫研究部門、九州沖縄農業研究センター）

共同研究機関・協力機関：宮崎県総合農業試験場、鹿児島県農業総合センター  
沖縄県農業研究センター

### 1. 研究背景・目的

九州の一部地域で基腐病とは異なるかんしょ腐敗症状が令和5年秋より確認されている。これまでにオープンイノベーション事業において、主要な原因菌は茎根腐細菌病菌や *Fusarium* 属菌であること、圃場の排水不良や作付時期等が発病を助長する可能性があることを明らかにした。また、抑制効果が期待される農薬候補を予備試験で選定した。

本提案課題では、抵抗性品種・農薬の活用、伝染源・発生助長要因の除去等に基づく総合防除体系を確立し、防除マニュアルを通じ、生産現場に導入することを目的とする。



基腐病とは異なる多様な腐敗症状

### 2. 研究内容

対策技術の重点化を図るため、かんしょ腐敗症状の原因菌の**発生生態**（伝染源、伝染経路）を明らかにする。腐敗症状の発生助長要因（圃場の排水性や栽培時期）について、現地や試験場での調査、試験により検証を行う。

かんしょ腐敗症状の低減のための薬剤探索と候補薬剤の**農薬登録**に向けた試験を実施する。

**抵抗性品種**と農薬の利用、伝染経路の遮断、発生助長要因の除去による総合防除体系を確立し、**マニュアル**を作成する。

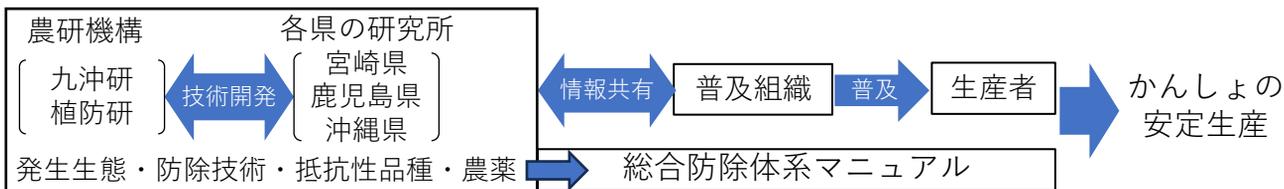


抵抗性品種



排水対策の有効性検証

抵抗性品種の導入や伝染源、発生助長要因の除去



### 3. 品種素材開発/利用拡大技術のスペック

抵抗性品種の導入。

茎根腐細菌菌に防除効果を有する薬剤を農薬として登録。

伝染源の減少や伝染経路の遮断に基づく防除技術を提案し体系防除に組み込み。

抵抗性品種＋農薬＋開発した防除技術＋栽培管理改善に基づくかんしょ腐敗症状の総合防除体系を確立し、現場に普及することで、かんしょ腐敗症状の発生を半減（R6年との比較）。